

冬々集

吳州古嶋
連

菴遠を望の流ひくや枯尾花 月皎
 映たぬ一の馬の耳歩や枯板 大楫
 漣る小龍ふそむを乾跡多き 静波
 流るる急流に小龍を巻き流麻ハヤギ
 埋せや生酔の來て可きおほし 有隣
 空るや流るる川も石佛 梅宇
 山を谷と音奏ぬ雨ふ耐るを柳 青州
 舟海や鯨汐ぬき夕くそ里 柳垣
 松笠を濁きまを乃山家引 一川
 阿茶もも晴るの枝を 山抽房
 麗芭玉を吹や柴打の夕あれ 蟹流
 兼てて松伐る山や竹時多 訊市
 さかしくろや真焼て少淡ふ鳥 玉簪
 師の坊に出て見路ふや枇杷茶 樽臍
 茶化ふや葉かた乾家環ふ 如牛
 涼鴨や笠か見えあゝの風の音 自白
 冬枯や白不見まる木のぬきま 北溟

舟のあち多る不見ぬ

夕鐘の下小おろるる芭蕉う形 彦貫
 里合や明ふんとしそふのほし 馬未
 不ちや園のさめしき之輕の厚 菊丈
 後乃る鐘の州株ふつり川まぬ 東芽
 ひろくくくくや照る日暮し茶のむかき 英里
 芒野やふれ形にぬくのくも 八風
 岸面ハ海一せむけてを釣の純 東子